

健康と光線

人類は太陽家族の一員

今日、私たちは人類の歴史が始まつて以来、最も豊かで便利な暮らしまをしています。しかし反面、人類は万物の靈長と驕りたかぶり、有限の資源の浪費の限りをつくし、その結果、地球の自然環境を破壊し続けています。オゾン層の破壊、地球の温暖化、酸性雨、海洋汚染、熱帯林の減少、砂漠化、野生動物の絶滅等々、そのどれをとっても人類が地球環境こそ総ての生命の共有財産であることを忘れたからです。

中でも一九七四年に米国のモリナとローランドが、「フロン（クロロフルオロカーボン）の使用によりオゾン層が破壊されると、地上に到達するUVB（波長の短い紫外線）が増加し、生態系や健康に重大な影響を及ぼす」と警告してから、国連を中心いて太陽光線を守る行動計画

（一九八八年オゾン層保護条約・モントリオール議定書）が立案され、国際的に関心を集めました。言うまでもなく、太陽光線を抜きに私たち地球家の生活は考えられないからです。

「光なければ生命なし」と言う箴言は、生命を誕生させた太陽光線の靈妙かつ奇跡的な作用を表すだけでなく、人類が太陽家族の一員であることを示しています。私たちに食物を与えてくれる食物連鎖も、私たちが必要とするビタミンDを生成出来ます。私たちに食物を与えるのも、太陽光線のお蔭です。今、その太陽光線が危ないとしても、こんな恐ろしいことはありません。

オゾン層とは

オゾン（O₃）層は主として成層圏の強い太陽光によって生成され、大気中全域に存在しますが、90%が地表20-30kmの成

層（成層圏オゾン層）に、10%が地表11kmまでに分布し、太陽が放射する紫外線の内、動植物の生態系に悪影響を及ぼす恐れがあるUVB（波長320nm-290nmの紫外線）を吸収するフィルターの役目をします。このように地球上を守る宇宙服の役目を果たして来たオゾン層をフロンを構成する塩素（Cl）が光分解して次のように破壊します。



ここで遊離したClは再び上記の反応を引き起こすため、繰り返しオゾン層を破壊し続けます。

オゾン層とは

オゾン（O₃）層は主として成層圏の強い太陽光によって生成され、大気中全域に存在しますが、90%が地表20-30kmの成

光医学と地球環境

— オゾン保護へ規制強化 —

光明 宇都宮 医学 博士 中央診療所

オゾン保護 へ 規制強化

平成4年2月

11日の新聞各紙

のためアメリカと欧州諸国が規制強化を決めたことを報じました。その原案によると、

①オゾン層破壊物質の代表格で、スプレーや冷蔵庫や半導体などの洗浄剤（日本の使用量の51%を占める）に使用されてい

す。特に注意しなければならないことは、フロンは殆ど分解されず、大気中に広がっていきますが、その寿命が極めて長いことです。現在、法的に規制の対象になっているフロンを特定フロンと言いますが、その中のフロン11の対流圏での寿命は60年、フロン12のそれは120年と言われています。そのため、今、フロンが全廃しても、なお当分の間は増え続けることを覚悟しなければなりません。加えて、フロンを始めとする微量ガスは地球の温暖化にも大きく関わっています。

④フロン製造の中間原料などに使われる四塩化炭素の全廃を二〇〇〇年から一九九五年に早めることを目指す。また現行の「モントリオール議定書」に廃止期限が示されていない水素元素を含むフロンについても、生産規制が全廃時期を提案するほか、殺虫剤などに使われる臭化メチルがオゾン破壊に与える影響を分析し、必要に応じて規制対象とすることも検討する、としています。

現在、私たちはフロンを始めとする人工産物の微量ガス（塩

素、臭素、水酸化物、一酸化窒素など）が地球成層圏の光化学反応に深刻な影響を与え、看過しえない問題を引き起こしていることを知られました。微量ガスを放置すれば、人類を始め地球の全生命が危機に直面すると言つても過言ではありません。これが対策が急がれている所以です。（三面に関連記事を掲載）

発行所
〒153 東京都目黒区目黒
4-6-18

サナモア光線協会
年4回発行
会費年500円
電話 東京（03）
3793-5281
3712-5322

光医学と地球環境

太陽光線こそ、地球の生態系（エコロジー）の生みの親であり、すべての恵みの源であることは誰でも知っている。人類も最近まで、太陽光線を恐れることなく親しく付き合ってきた。小麦色や褐色に日焼けした皮膚は見るからに健康で魅力的だった。

はじめに

UVB(紫外線B)とは

について記載する。

UVB (紫外線B) とは
紫外線 (ultraviolet light)
UVと略)は波長(ナノメータ、
nmと略。1 nmは1 mmの百万分の
1)の長い方から、UVA(40
0-320 nm)、UVB(320-
290 nm)、UVC(290-2
00 nm)に分けるが、波長の短
い紫外線ほどオゾン層で吸収さ
れる。即ち、UVCはエネルギー
は最も大きく成層圏までは大量
に届いているが、オゾン層で完
全に吸収され地表には届かない
し、UVBもオゾン層で大半が
吸収される。このようすにオゾン
層は有害な紫外線をカットする
フィルターとして働き、地球の
生態系を護ってきたが、近年に
なってオゾン濃度が減少し地上
に到達する波長の短い紫外線が
強くなつた。特にUVBの増加
が指摘されており、その生態系
に及ぼす影響の解明が急がれる
のである。

紫外線のもう一つの有益な作用に於ける影響を論じるのは當を得てない。これに対し、オゾン層の破壊が問題になつてから、紫外線に関する実験の精度は著しく向上し、後述するように太陽光線の靈妙かつ微妙な作用が逐次明らかにされつつある。なおこれからはオゾン濃度減少の影響に加えて、系外線が植物病原菌や害虫などに与える影響の問題をも含めたノイールドワークが求められる。

用にフラボノイド化合物(炭水化物を有する化合物)の合成がある。フラボノイド化合物の合成は、UVBと赤色光の相乗作用によるが、花や果実の色の主成分になると共に、300 nm附近に強い吸収帯を持ち、植物に入射するUVBの90%をカットする。

すると、
①紫外線の増加が植物の発育に及ぼす影響は、オゾン層の破壊を防げるか、一層進むかによって大きく異なる。
②オゾン層の破壊が現状で推移すれば、収穫量に及ぼす影響は殆どないか、むしろ増収になると考えられる。
③オゾン層の破壊が進行し、これまで以上に波長の短い紫外線が増えれば、収穫量に潰滅的な打撃を与える恐れがある。
④僅か数mm程度の波長の違いでも、極めて大きな差になって現れる。

私の治験例から

神戸市
松元光線治療所

松元 浩士

サンモアの素晴らしさに改めて感激

糖尿病
65歳・男性

昭和五十三年に糖尿病と診断された。左腎臓の摘出手術を受けていた。

平成三年八月二十日来所。患者は糖尿病のインシュリン療法をしていたが、

平成二年九月に右眼の眼底出血を起こし始めど視力を失った。また左上腹部（脾臓部）に痛み（三年前から）があり、足にしびれや痛みがあった。顔はどす黒く、唇も黒ずんで乾燥していた。

治療はABカーボンで、膝、足首、足裏、ふくらはぎ、

腰、背中、肩、頬、後頭部（一号集光器）各10分、BDカーボンで左右の眼（二号集光器）、左右のこめかみ（一号集光器）、脇臓部（左上腹部）前後、肝臓部（右上腹部）前後と右横から各10分、腎臓部20分照射した。

一回の治療で顔色は大分よくなり、二日目には右眼から涙が出ていたが、蛍光燈の方に手を出して見るとうつすら五本の指が見えるようになる。それから日増しに顔色が良くなり、唇はピンク色になり生き生きとしてきた。五日目頃から足のしびれや痛みが楽になり、左上腹部の痛みも殆どなくなる。顔色も健康人と変わらなくなる。七日間治療して、五泊六日の旅行をしたが、旅行中、足が軽く人並みに階段の上り下りが出来たと喜んでいた。旅行から帰って二日目には、真正面から見ると暗がりでも五本の指がはっきり見えるようになる。これまで視野の上半からと下半から、かすかに見えただけだったのに驚いていた。左眼の視力も改善し、以前よりはっきりと見える。

治療を始めて一ヶ月後に眼科前頭部、後頭部各20分、ABカーボンで視力検査を受けたが、左眼視力は0.6から0.9になり、右眼では指の数を一本、二本、三本と数えられた。診察を受けた際に医師に光線療法のことを話したが、これだけ良い結果が出ているので続けるように言われた。

内科的には、腎臓、肝臓に異常なくインシュリンを減量したが、血糖値は、食事によって変動するが、空腹時101～120mg/dl、食後180～290mg/dl程度で落ち着いている。

現在、週に三回のペースで治療を続けながら、ゴルフに行ったり旅行をしたり生活をエンジョイされている。

本例は念のため大学病院に入院して検査を受けたが、そこでも異常なしと言われ大変喜んでいた。

一回の照射で、血圧は145/90mmHgに下がり、頭痛は消失、三日目には血圧は126/80mmHgにならる。一週間後に入院のため病院に行つたが必要ないと言われた。

ボンで、左右首筋、喉、腹、背中、腰、膝、ふくらはぎ、足首、脚部（腰臓部）に痛み（二年前から）があり、足にしびれや痛みがあった。顔はどす黒く、唇も黒ずんで乾燥していた。

治療はABカーボンで、右側頭部60分、頭頂部、左側頭部、

治療を開始して三日目には右膝に四方から各20分、左右脛骨部に各20分照射した。

治療を開始して三日目には右膝に四方から各20分、左右脛骨部に各20分照射した。

治療を開始して三日目には右膝に四方から各20分、左右脛骨部に各20分照射した。

治療を開始して三日目には右膝に四方から各20分、左右脛骨部に各20分照射した。

脳梗塞の疑い
59歳・男性

頭痛で病院を受診したところ、血圧200/110mmHg、右側頭部の血管が細く詰まりかけているので入院の手続きをするように指示された。

治療はBDカーボンで、右側

頭部60分、頭頂部、左側頭部、

治療を開始して三日目には右

65歳・女性

和歌山県に居住。大学病院で関節リウマチと診断され治療を受けていたが、殊に右膝関節が悪く、一年ほど前から正座できず困っていた。本例は妹宅に泊まつて来所した。

A Bカーボンで基本照射を各10分、BBカーボンで右足首と

右膝に四方から各20分、左右脛骨部に各20分照射した。

治療を開始して三日目には右

膝に四方から各20分、左右脛骨部に各20分照射した。

治療を開始して三日目には右

膝に四方から各20分、左右脛骨部に各20分照射した。

治療を開始して三日目には右

左乳癌の手術と術後放射線療法を受けたが、そこでも異常なしと言われ大変喜んでいた。

本例は念のため大学病院に入院して検査を受けたが、そこでも異常なしと言われ大変喜んでいた。

ボンで、左右首筋、喉、腹、背

中、腰、膝、ふくらはぎ、足首、

脚部（腰臓部）に痛み（二年前から）があり、足にしびれや痛み

があった。顔はどす黒く、唇も

黒ずんで乾燥していた。

治療はABカーボンで右足首と

乳癌術後
72歳・女性

治療を開始して三日目に腕の腫れが引き始め、それまで使用できなかつた腕時計がはめられるようになつたが、治らないものと諦めていたのにと大変喜んでいた。約一週間で著しく改善したが、現在も月に二回ぐらい健康管理を兼ねて治療に来られて

ボンで、左右首筋、喉、腹、背中、腰、膝、ふくらはぎ、足首、脚部（腰臓部）に痛み（二年前から）があり、足にしびれや痛み

があつた。顔はどす黒く、唇も

黒ずんで乾燥していた。

治療はABカーボンで右足首と

右膝に四方から各20分、左右脛骨部に各20分照射した。

治療を開始して三日目には右

膝に四方から各20分、左右脛骨部に各20分照射した。

治療を開始して三日目には右

膝に四方から各20分、左右脛骨

(五ページからつづく)

るくなつた。

先天性の 発育不全

4歳・男児

長崎から来所された。言葉の発達が遅く、左の腕と足の筋力が弱く動きが悪い。これまで病院には何箇所も行ったが然りがひどかったために飲んだ薬が原因と言われた。

治療はAA又はABカーボン

で、腹、膝、ふくらはぎ、腰、背中7分、後頭部、左右側頭部10分、かかと5分、左足首四方から各5分、左手首前後から各5分、左肩胛骨部と首筋5分、足裏10分照射（必要に応じ集光器を使用）した。

一回の治療で腕を上に上げられるようになり、三回目には硬くて回らなかつた足首が回るようになる。言語も日増しに良くなり話をするようになる。本例は自宅で治療を継続中であるが、今では階段の上り下りがどんどん出来るようになって明

全身の打撲

52歳・女性

二階のベランダからトタン屋根を突き破つて転落、直ちに救急車で病院に運ばれ、診察の結果、骨に異常はないが全治まで二ヶ月と診断され、入院するように指示されたのを断つて来所した。特に腰から尾骨を強打していた。

全身の患部にBBカーボンで

10分照射してからBDカーボンでも10分照射したが、打ち身のひどい腰から尾骨（一号集光器）には各30分照射した。

治療を始めて三日目に勤めに行き、四日目からは勤め帰りに治療したが、十六日間で全治した。

本例の場合、自覚症状は速やかに改善し、治療を始めた直後から付添いなしでは不安で歩けなかつたのが歩けるようになり、周りの心配をよそに、治療室の階段を上がつたり下りたり散歩に行つたりするようになつた。治療は集中して六日間、十二回行つたが、治療後の経過に満足して千葉に帰られた。

天地創造の昔から、眞の光、即ち太陽光線は、私たちに限りない恩恵を与えています。サンモア光線療法は、この太陽光線の健康増進、疾病予防および治療効果を利用した治療法です。従つて、目に見える可視光線だけではなく、目に見えないが無くてはならない紫外線や赤外線を目的に感じて適切に放射しなければなりません。

このサンモア愛用者を以て、光線療法の研究を行うと共に、啓蒙・普及活動を行うためサンモア光線協会を設立しました。

サンモア光線協会は、設立の趣旨に賛同戴いた会員にて構成し、季刊紙「健康と光線」を発行します。

医学博士
宇都宮
光明

協会では、会員を募集しております。
入会希望者は、左記宛御申込み下さい。

〒153 東京都目黒区目黒4-6-18

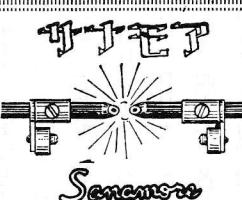
(神戸市東灘区深江北町2-1
7-31・TEL078-141093)

(本紙の無断転用を禁止します。)

パーキンソン病

76歳・男性

千葉県立川市から来訪。自



サンモア 光線協会

趣意書